

2019年度 一般選抜(前期日程) 国語 出題のねらいと解答例

出典

養老孟司、『遺言。』、新潮社

出題のねらい

語句の意味・用法などを理解したうえで使いこなす能力、文章の構成や表現の特色を捉える分析力、論理の展開や要旨を的確に読みとる理解力、内容全体を総合的にまとめる論理力、論理的な構成を工夫して文章にまとめる構成力を測っている。

昨年度までと同様、今年度の問題では長文を読み、それに基づいて語彙や文法などにかかわる基礎知識を問うとともに長文の記述問題を出题した。

解答例

問題Ⅰ (配点20点)

問一

- (ア) そこ
- (イ) せいけつ
- (ウ) じょうよ
- (エ) めんえき
- (オ) はくだつ

問二

- (い) 冒頭
- (ろ) 臨終
- (は) 余裕
- (に) 滑
- (へ) 既存
- (と) 拾
- (ち) 偽物
- (り) 舗装
- (ぬ) 遮断

問三

- i 4
- ii 3
- iii 2
- iv 5
- v 4

問題Ⅱ (配点55点)

問一

- あ 5
- い 1
- う 6
- え 2
- お 4

問二

2

問三

3

問四

1

問五

1

問六

3

問七

5

問八

社会システムは、無意味なものが一切ない、一定に意味づけられた恒常的な環境を作る。しかし私生活において、森、川、海などの自然や家族と身体的に接すれば、生身のヒトは、さまざまな感覚所与を含む、ノイズの集まりのような存在であると分かるということ。(120文字)

問九

生身のヒトは、意味を持たない雑音を多く含んでいるが、現代社会はそのような雑音を除去し、変化することのない情報に基づいて構築されている。このため、現代社会が情報を基礎とすることは、「意味しか存在しない世界」を作っていることになるということ。(119文字)

問題III (配点25点)

評価方法

文章の明快さ、語句の適切な使用、概念の理解、記述の論理性などを総合して評価する。

以上